

国立競技場

2012. **11**・**12**
Vol.594



a-nation
musicweek Charge
▶ Go! ウイダー in ゼリー



FIFA U-20
女子ワールドカップジャパン2012を終えて



ロンドン通信
回ソシ マルチサポート・ハウス

第9回 JISSスポーツ科学会議開催

平成25年度スポーツくじ助成 募集開始

国立登山研修所
夏に開催した研修事業

スポーツ博物館

スポーツの秋!
企画展開催中

SPORTS
NEWS
STADIUM



FIFA U-20 女子ワールドカップ ジャパン2012 を終えて



U-20 の歴史

女子 20 歳以下のサッカーの世界大会「FIFA U-20 女子ワールドカップ ジャパン 2012」が、8月19日～9月8日までの20日間にわたって開催され、

国立競技場では決勝を含む 8 試合が行われました。

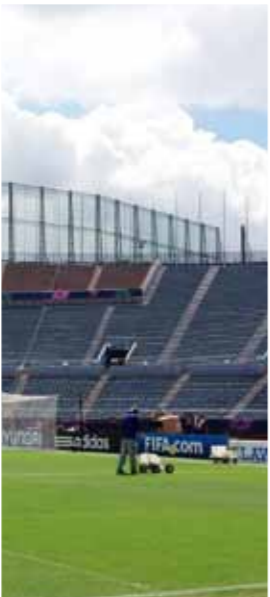
本大会は、2002 年に第 1 回大会がカナダで開催され、以降 2 年ごとに開催されています。当初は 19 歳以下の女子選手を対象とした大会でしたが、2006 年第 3 回ロシア大会より年齢制限が 1 歳引き上げられ、20 歳以下となりました。

また、今回のワールドカップはウズベキスタンで開催されることになっていましたが、同国の準備不足のために取り止めることを決定し、その後日本での代替開催の声が掛かり、初めて女子サッカーの世界大会が日本で行われることになったのです。

FIFA の厳しい基準

試合当日の運営エリアはゾーンごとに細かく入場制限が行われ、ADパスを持っているスタッフでも、許可されていない場所には入れない仕組みになっています。また、国立競技場内にある広告は全てマスキング（隠すこと）をしなければなりません。自動販売機や外壁にある商業的な要素を含む掲示物などには、黒い布やポスターを貼って対応をしました。

さらに、ピッチ内の管理も同様にいくつかの基準が示されました。特に印象的な例を二つ挙げます。



ピッチのライン引き

1つ目は芝の長さです。今回の大会では当初 27mm に統一するよう FIFA から指示がありました。しかし、日本と欧米諸国では芝の種類や特性も違うことなどから、グラウンドの状態を考慮し、芝の長さの調節をしました。国立競技場では、芝の生育状況やボールの転がり方を総合的に判断し、主催者側と協議した結果、20mm の長さでこの大会を迎えることとなりました。

2つ目は散水のタイミングです。1日に2試合行われる場合、FIFA では1試合目開始3時間前、20分前、1試合目終了後、2試合目開始20分前という散水の目安があります。これは、グ



優勝したアメリカチーム

ラウンドが乾燥すると固くなるという考えから、散水をする事によりグラウンドを柔らかくするという目的があるようです。

しかし、国立競技場のグラウンドはこの大会に合わせて大会前から整備を行っていたため、FIFA の求める散水回数より少ない回数で対応ができました。

このように、ミリ単位での芝の長さの調整、散水の細かい時間設定など、ワールドカップが行われるピッチ作りにも様々な基準があることに、FIFA 大会の厳しさを感じさせられました。

秩父宮ラグビー場に サッカーゴールの搬入

試合間では、選手やレフェリーのトレーニングが各地で行われますが、東京周辺には練習場となるグラウンドが少ないため、秩父宮ラグビー場が練習場の一つとして利用されました。サッカーのために秩父宮ラグビー場が使用されることは大変珍しいことで、東京オリンピック以来、実に 48 年振りの出来事でした。



ラグビー場でのレフェリートレーニング

大会結果

最近のなでしこジャパンの活躍もあり、国立競技場での初戦(8/26: グループマッチ第3戦)には 16,000 人の方が応援に駆けつけました。それ以降も試合ごとに観客数は増え、9月8日最終日の3位決定戦には 31,000 人となり、注目度の高さを感じました。また結果も、U-20 女子最高の成績である3位となり、銅メダルを獲得しました。体格的には他国の選手に比べるとハンドがあったかと思いますが、高い運動量と攻撃的なサッカーで、大いに盛り上がった試合展開が印象的でした。

これからも日本のサッカーの聖地として、選手がプレーしやすいグラウンドの管理、お客様に感動していただけるような運営管理体制を築いていけるように努力をしていきたいと思ひます。

大規模イベント開催！ a-nation musicweek Charge ▶ Go! ウイダー in ゼリー



「a-nation」タグライン

「a-nation」とは

2002 年から全国各地の野外会場にて毎年 7 月から 8 月にかけて開催される、トップアーティストからブレイク前のアーティストまで様々なアーティストが参加する日本大都市横断ライブツアーイベントの総称です。

今回は、メイン会場の代々木競技場第一体育館をはじめ、第二体育館、SHIBUYA-AX、SHIBUYA-BOXX のほか大小様々な商業施設など、渋谷の街全体を取り込んだ「タウンフェス」として、音楽・ファッション・フード・アミューズメント等多種多様なコンテンツが提供されました。

a-nation musicweek Charge ▶ Go! ウイダー in ゼリー開催

8月3日から10日間にわたって開催された『a-nation musicweek Charge ▶ Go! ウイダー in ゼリー』は、代々木競技場としても久しぶりの大規模かつ長期のイベントとなりました。

第一体育館では、日替わりでアイドルやロック、アニメソング等の多彩なコンサートが開催され、8日には「FNS うたの夏まつり」が4時間以上にわたり生中継で行われました。第二体育館では、豪華アーティストが実際にコンサート等で使用していた衣装や秘蔵アイテム等を展示するアーティストミュージアムが開催されました。



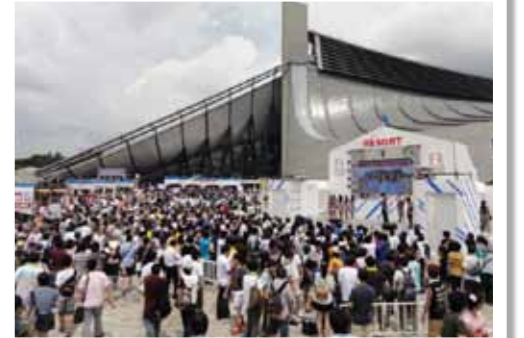
第二体育館内アーティストミュージアム



ビーチパーク内エクストリームスポーツ

数出店し、リゾート気分を味わえるビーチパークに早変わり。さらに巨大ランプを設置し、プロライダー達による世界クラスのエクストリームスポーツアトラクションも開催され、観客も熱く盛り上がっていました。

この他にもヘアアレンジやネイル、ボディアート等の体験ができるビューティ & ファッションブース、アーティストコラボやテレビ番組オリジナルが用意されたフードエリア、スポンサーブースやアーティストグッズを販売する原宿パーク等が設置され、10日間で合計 10 万人以上を動員し、大盛況のうちに終了しました。



リゾートステージにてイベント開催 (原宿口)

「a-nation musicweek」での主軸となっているのが、敷地全体を利用した Resort Area と称する展開です。Resort Area は各エリアごとにテーマが分かれており、第一体育館渋谷口前の広場にはステージを設置し、日替わりでアーティストやタレントのライブ、ダンスショー等が行われました。夜はステージ前がピアガーデンに変わり、ステージではフラダンス等のハワイアンショーで来場者を盛り上げていました。また、初日には渋谷口の前に「a-nation」タグラインの 10 色をモチーフにしたカラフルなカーペットが敷かれ、出演者がリムジンに乗って続々と登場する豪華なオープニングセレモニーも開催されました。

通常は来場者の有料駐車場として営業しているエリアも、地面に人工芝を敷き詰め、かき氷やジェラート等のお店が多

な打合せや現場視察、100 ページ以上にもなるマニュアルの確認等を幾度も繰り返し構想を練り準備を整えてきました。

「a-nation musicweek」が終了し、全体的には大成功を収めましたが、施設側としては細かいところで情報共有の不足や室内水泳場等他施設利用者、場内通行者及び近隣住民への配慮不足など、次回への課題を残す結果となりました。大規模施設の管理者として現状の在り方を今一度見つめ直し、より良い施設管理運営に努めていきたいと思ひます。

イベントを終えて

大成功を収めた『a-nation musicweek Charge ▶ Go! ウイダー in ゼリー』ですが、華やかな舞台の裏にはイベントを支えるスタッフ達による苦勞があります。約 10ヶ月前の昨年 11 月には大まかなプランがまとまり、今までにないような展開から競技場と主催者や関係省庁等、様々



日本選手団への マルチサポート・ハウスでのサポート



競技団体への説明

1. 背景

第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)(以下「ロンドンオリンピック」という)でのメダル獲得に向けて、独立行政法人日本スポーツ振興センター(以下「センター」という)は、文部科学省委託事業「チーム「ニッポン」マルチサポート事業(以下「マルチサポート事業」という)」を平成20年度に受託しました。マルチサポート事業は、ロンドンオリンピックにおいて我が国が世界の強豪国に競り勝ち、より確実にメダルを獲得するためにトップレベル選手などのメダルが期待される者に対して、多方面からの専門的かつ高度な支援を戦略的・包括的に行う事業です。

センターはマルチサポート事業において、選手のパフォーマンスの最大化に焦点を当て、ロンドンオリンピックでの競技会への最善の準備を行う環境を提供するため、選手村の外にスポーツ医・科学、情報面等から総合的にサポートするための拠点「マルチサポート・ハウス」を設置しました。

2. 設置に向けて【施設選定】

2010年11月に行われたアジア競技大会(2010/広州)のトライアルを踏まえ、施設の選定を行いました。選定にあたっては、ロンドン事務所の協力を得ながら候補施設を調査しました。アジア競技大会でのトライアルを踏まえ、選手村から徒歩約10分の好立地にあったストラトフォード・サーカスという劇場を候補地として選定しました。

そして、2011年7月4日に、ロンドンオリンピックにおける「マルチサポート・ハウス」の設置施設として、ストラトフォード・サーカスと利用契約締結に伴う調印式を行い、マルチサポート・ハウスの設置施設が決定しました。

3. 実施に向けての検討等

施設決定後、より具体的に実施に向けての検討を進めました。

①競技団体視察

利用者である競技団体にロンドンでのプレ大会時等に合わせマルチサポート・ハウス設置施設であるストラトフォード・サーカスを視察いただき、本番のイメージを掴んでもらいました。

②マルチサポート・ハウススタッフ全体でスタッフミーティングの実施

オリンピック開催前にマルチサポート・ハウスに従事するスタッフに対して全体ミーティングを実施しました。日本選手団の上村団長や(公財)日本オリンピック委員会から講師を招き、オリンピックに向けてスタッフの意識を高めると共にマルチサポート・ハウスの進捗状況やオリンピック情報の提供を行いました。



マルチサポート・ハウス(外観)

4. 現地での設営・運営

2012年7月9日、マルチサポート・ハウスの設営を開始しました。元々劇場のため、内部を改装してサービスに利用できるように設営を行いました。中でもリカバリープール用の仮設テントの設置、トレーニングホール設置のための柔道の畳の運び込み等、スタッフと設営業者が共同で7月16日の開設に向けて作業を進めました。作業を進める中で、機器のトラブルや物品の不足等により順調にいかないことも多々ありましたが、スタッフ一丸となって開設に向けて作業を行いました。

そして7月16日、マルチサポート・ハウスが開設されました。翌17日には内覧会・プレスカンファレンスを実施し、オリンピックで初めて設置したということもあり、多くのメディアの方に参加いただきました。

オリンピック開幕が近づくにつれて、日本選手団が続々とロンドン入りし、それに伴いマルチサポート・ハウスの利用も多くなりました。特に日本選手団本体が到着後、急激に利用者が増加しました。その中でも、サポート・サービス担当スタッフを中心に日本選手団にJISS(国立スポーツ科学センター)と変わらない環境とサービスを提供できるよう、競技団体をサポートしているスタッフとも連携しながら運営を行いました。

オリンピック開幕後も試合の合間に来訪される選手が多く、リカバリーミール、リカバリープール、メディカルケアサポート



リカバリーコンディショニングホール

等を中心に利用されていました。また、トレーニングホールを3階に設置したことから、柔道、レスリングの選手に多く利用いただきました。リラックスして利用している選手が多く、最終調整の場として活用いただけたと思います。

8月12日の閉館までの期間中、延べ4,000名を超える利用者(選手、スタッフ等)があり、マルチサポート・ハウスは多くの競技団体に利用されました。日本は過去最多のメダル獲得となりましたが、マルチサポート・ハウスがその一助となったのではないかと思います。

5. 終わりに

今回、運営担当者として運営関係全般に携わりましたが、選手がマルチサポート・ハウスを利用するためのスケジュール調整やサポート・サービス担当スタッフとの調整等、多岐に渡る業務で多くのことを学びました。また、オリンピックは世界的なイベントであり、多くの方が関わっていることも改めて感じました。

マルチサポート・ハウスは、2009年8月の現地調査から始まり約3年間にわたるプロジェクトです。サポート・サービス充実に向けて日々検討を重ねてロンドンオリンピックを迎えましたが、今回の経験等を踏まえて、ソチ、リオ両オリンピックでの設置に向けて検討を進めていきたいと思っています。

※「ロンドン通信」はこれをもって終了となります。

JISSスポーツ科学会議 開催のお知らせ



第8回 JISS スポーツ科学会議の様子

日時 2012年12月7日(金) 10:00~18:00(予定)

場所 味の素ナショナルトレーニングセンター 研修室

住所 〒171-0052 東京都北区西が丘3-15-1

参加費 無料

招待講演者 Dr. Randall Wilber / USOC
Dr. Ken van Someren / EIS (予定)

プログラム等 JISSのホームページ
(<http://naash.go.jp/jiss/>) をご参照ください。

国立スポーツ科学センター(JISS)では、JISSの研究成果を広く公表するとともに、スポーツ医・科学・情報の研究者、コーチ、競技団体関係者が一堂に会し競技力向上のための意見交換を行う場として、JISSスポーツ科学会議を開催しています。

このたび、第9回JISSスポーツ科学会議「スポーツ科学、次へのステップ ~ロンドンオリンピックとこれから~」を2012年12月7日(金)に味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて開催することとなりました。海外強豪国から招待した講演者による特別講演や、先日開催されたロンドンオリンピックにおけるJISSの取り組みの紹介、また、次のオリンピックに向けての展開

など、盛りだくさんの内容となっておりますので、奮ってご参加ください。

●申込方法や会議の詳細については、国立スポーツ科学センターのホームページ(<http://naash.go.jp/jiss/>)に掲載しますので、ご参照ください。

お問い合わせ先

国立スポーツ科学センター研究・支援協力課
電話: 03-5963-0202 FAX: 03-5963-0232
Eメール: research-01@jiss.naash.go.jp



国際競技大会開催助成
神奈川県横浜市（2011 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会）



将来性を有する競技者の発掘育成活動助成
一般社団法人日本女子サッカーリーグ（プレナスチャレンジリーグ）

平成25年度
スポーツくじ助成
募集開始

地域スポーツ施設整備助成
大阪府堺市（堺市立サッカーナショナルトレーニングセンター整備）



総合型地域スポーツクラブ活動助成
特定非営利活動法人神流川スポーツクラブ
（toto総合型地域スポーツ事業）

平成24年度のスポーツ振興くじ（totoやBIG）の収益による助成は、過去最高約185億円の交付を決定しました。平成14年度からの助成額の累計は、約571億円となり、全国各地において、地域スポーツの普及やスポーツの競技水準の向上に関するさまざまな事業に活用されています。

平成24年度は、新たに、東日本大震災の被災地のニーズ・要望等を踏まえた「被災地の総合型地域スポーツクラブ支援事業」への助成のほか、ヤングなでしこが躍動した「FIFA U-20 女子ワールドカップ ジャパン2012」や「2020 オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会招致活動」への助成も決定されました。

また、totoのサポートにより育成・強化をしてきたトップアスリートが、この夏のロンドンオリンピックで多数のメダルを獲得されています。

さて、日本スポーツ振興センター（JAPAN SPORT COUNCIL）では、平成25年度スポーツ振興くじ助成の募集を行います。

平成25年度は、被災地の復旧・復興支援のための助成を継続して行くとともに、例年同様に、地方公共団体やスポーツ団体が行うスポーツ活動や地域スポーツ施設整備などの事業を対象とします。

より多くの団体にtotoの助成を活用していただき、スポーツを推進する事業を充実されることを期待しています。引き続き、totoの理念のPRや売上の一層の向上に努めていきます。

- 1 助成対象者**
● 地方公共団体及びスポーツ団体
- 2 募集対象事業**
● 地域スポーツ施設整備助成 ● 総合型地域スポーツクラブ活動助成
● 地方公共団体スポーツ活動助成
● 将来性を有する競技者の発掘育成活動助成
● スポーツ団体スポーツ活動助成 ● 国際競技大会開催助成
● 大規模スポーツ施設整備助成 ● 東日本大震災復旧・復興支援助成
● 2020 オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会招致活動支援助成
- 3 申請書受付期間**
● 平成24年12月3日(月)～12月28日(金) ※一部締切日が異なります。
- 4 申請方法**
● 詳細は、日本スポーツ振興センターのホームページをご覧ください。
<http://naash.go.jp/sinko/>

スポーツ博物館 スポーツの秋！企画展開催中

秋まっさらのこの季節。秩父宮記念スポーツ博物館では現在、オリンピックにちなんだ2つの企画展を開催しています。スポーツに汗を流すのも良いですが、この機会にスポーツに関する知識も深めてみてはいかがでしょうか。

まず最初にご紹介する展示は、「ロンドンオリンピック企画展 ー日本スポーツ100年目の闘いー」と題した、ロンドンオリンピックをテーマにした企画展です。今大会、日本は史上最多の38個のメダルを獲得しました。まだまだ興奮が冷めやらぬ方も多いのではないのでしょうか。

本展では、聖火トーチや日本選手団が開会式で着用していたデレゲーションユニフォーム、グッズやポスター等を展示しております。また、今年日本がオリンピックに初めて参加してから100年目の年であることから、「現在は過去と未来をつなぐ」をテーマに、既存の資料と合わせて見ていただけるような写真パネルのコーナーもご用意しております。今大会の選手の活躍を振り返りながら、過去に同じ競技・種目で活躍した歴代のオリンピック選手について学ぶことができます。

さて、もうひとつの展示をご紹介する前に、ここで一つ問題です。皆さんは日本人で初めてオリンピックに参加した人をご存知でしょうか。2つ目の企画展はそんな人物に

焦点を当て、日本のオリンピック出場100周年にちなんだ企画展です。題して、「ストックホルムオリンピックから100年 マラソンの父・金栗四三の足跡」です。

日本がオリンピックに初めて参加したのは、1912年にスウェーデンで開催された第5回ストックホルム大会です。そこで、三島弥彦とともに日本人としてオリンピック初出場を果たしたのが、金栗四三その人です。

本展では、金栗氏の出身地である熊本県玉名市にある博物館、玉名市立歴史博物館こころピアの協力を得て、金栗氏にまつわる貴重な資料を展示しています。第5回ストックホルムオリンピックのマラソン競技中に行方不明となった金栗氏。そのときのエピソードや、氏の介抱につとめたパトレ家との交流についても、パネル等で詳しく解説しています。また、金栗氏のマラソン人生を楽しく学ぶことができる“金栗四三すごろく”もご用意しました。ぜひ、「スポーツの秋」を見に、触れに、スポーツ博物館へご来館ください。



金栗氏の年表と愛用の品々

国立登山研修所 夏に開催した研修事業

8月に国立登山研修所が開催した主催事業について紹介します。



雪渓歩行技術研修（剣岳長次郎谷）

で雪渓の歩き方、別山北尾根で支点の構築や懸垂下降技術等の研修を行いました。

下山後の最終日には、「夏山の気象と雪渓」の講義後、「今回研修会で学んだことを踏まえ、1年後どのようなリーダーになっているか」をテーマに一人一人が自分のクラブ活動を振り返りながら意見を発表し、担当講師からリーダーについてのアドバイスを受けました。

研修生は、7日間の研修を通して、リーダーとして登山活動を行うために必要な心構えや危急時対策を学びました。残念ながら悪天候のため剣岳登山を断念しましたが、リーダーとしての状況判断能力や決断力を習得しました。

大学生登山リーダー夏山研修会

大学において、登山活動を行うクラブ等のリーダーとリーダー候補者を対象に、国立登山研修所及び剣岳周辺を会場として、8月31日から7日間の日程で開催しました。

30名の研修生は、2日間「ナビゲーション技術」「確保理論」「登山の医学」の講義を受講し、班毎に分かれてロッククライミング訓練施設やスポーツクライミング用人工壁でロープ操作等の基本技術を習得し、剣沢に向けて入山しました。

入山中は、大気の状態が不安定で、めまぐるしく天気が変わる悪条件の中、熊の岩周辺でピバーク研修や長次郎谷



登山技術研修（剣岳ハッ峰6峰Aフェース）

国立競技場

サッカー	2012Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝	(11/3)
陸上	第29回全国スポーツ祭典陸上競技大会	(11/11)
陸上	2012 tokyo athletic challenge	(11/17)
陸上	FIT チャリティ・ラン 2012	(11/18)
サッカー	2012Jリーグ J1 昇格プレーオフ決勝	(11/23)
陸上	10000m 記録挑戦競技会	(11/24)
陸上	第2回早稲田駅伝 in 国立競技場	(12/1)
ラグビー	関東大学対抗戦Aグループ 早稲田大学 vs 明治大学	(12/2)
陸上	協会設立30周年記念大会 第30回 JBMA 神宮外苑ロードレース	(12/9)
陸上	2012 神宮外苑 EKIDEN	(12/16)
サッカー	第92回天皇杯全日本サッカー選手権大会 準決勝	(12/29)
サッカー	第91回全国高校サッカー選手権大会開会式・開幕戦	(12/30)

秩父宮ラグビー場

ラグビー	第92回全国高校ラグビーフットボール大会 東京都予選決勝	(11/11)
ラグビー	第8回東日本トップクラブラグビーリーグ 決勝	(11/18)
ラグビー	第49回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 1回戦 (12/8~9) 2回戦 (12/16) 3回戦 (12/23)	
ラグビー	第31回東日本中学校ラグビーフットボール大会 3位決定戦 / 決勝	(12/23)
ラグビー	トップチャレンジシリーズ 九州2位 vs イースト2位	(12/24)
ラグビー	関東大学対抗戦A 早稲田大学 vs 帝京大学, 慶應義塾大学 vs 明治大学 (11/3) 帝京大学 vs 明治大学 (11/18) 早稲田大学 vs 慶應義塾大学 (11/23) 帝京大学 vs 筑波大学 (12/1)	
ラグビー	関東大学リーグ戦第1部 東海大学 vs 大東文化大学 (11/4) 大東文化大学 vs 日本大学, 関東学院大学 vs 流通経済大学 (11/10) 法政大学 vs 拓殖大学 (11/17) 法政大学 vs 日本大学, 流通経済大学 vs 東海大学 (11/25)	
ラグビー	ジャパンラグビートップリーグ 2012-2013 ディビジョン1 サントリー vs NTTコミュニケーションズ (12/15) NTTコミュニケーションズ vs 近鉄, NEC vs キヤノン (12/22)	
ラグビー	ジャパンラグビートップイーストリーグ ディビジョン1 秋田ノーザンブレッツ vs 日野自動車, 東京ガス vs 栗田工業 (11/24) 三菱重工相模原 vs クボタ (12/1)	

代々木第一体育館

体操	第66回全日本体操競技団体・種目別選手権大会	(11/2~4)
コンサート	URBAN GROOVE ~ Girls Award Special week ~	(11/7)
ファッションショー	Girls Award 2012 AUTUMN/WINTER	(11/8)
コンサート	UVERworld コンサート	(11/10~11)
イベント	Playing with GIRLS' GENERATION	(11/13)
新体操	第65回全日本新体操選手権大会	(11/16~18)
コンサート	2012 ARENA TOUR in JAPAN[SECOND INVASION] EVOLUTION PLUS 追加公演	(11/21~22)
太極拳	2012 太極拳全国交流大会お祝い演舞	(11/23)
体操	2012 日本体操祭	(11/24~25)
ヘアカットショー	第9回フューチャーズロード「デザインパワー」2012	(11/27)
柔道	グランドスラム東京 2012	(11/30~12/2)
チアリーディング	第24回全日本学生チアリーディング選手権大会	(12/8~9)
コンサート	Acid Black Cherry 5th Anniversary Live "Erect"	(12/11, 13)
コンサート	オールナイトニッポン45周年感謝祭 ALL LIVE NIPPON	(12/15)
コンサート	ニッポン放送 ミュ〜コミ+ presents アニメ紅白歌合戦 Vol.2	(12/16)

代々木第二体育館

バスケット	JBL2012-2013	(11/2~3, 17~18, 12/14)
空手	2012 北斗旗全日本空道無差別選手権大会 / 2012 全日本ジュニア選抜空道選手権大会	(11/10)
空手	2012 全日本空手道選手権大会	(11/11)
バスケット	「東日本大震災」被災地復興支援 第64回全日本大学バスケットボール選手権大会	(11/19~25)
バスケット	第15回関東実業団・学生オールスター対抗戦	(12/15)
体操	第44回日本体育大学演技発表会	(12/16)
レスリング	「天皇杯」平成24年度全日本レスリング選手権大会	(12/21~23)
コンサート	SuG Oneman Show 2012 「This iz 0」	(12/29)
コンサート	The 5th Anniversary year に華咲かす為ダウトとD=OUTが手を組んだ!? 極上のダウト愛を込めて全身全霊でお贈りする見納めのドリームステージ! 「THE FINALE」	(12/30)
コンサート	Alice Nine Live 2012 Court of "9" #4	(12/31)

味の素フィールド西が丘

サッカー	第91回全国高校サッカー選手権東京大会A B準決勝	(11/10~11)
サッカー	第91回全国高校サッカー選手権東京大会A B決勝	(11/17)
サッカー	Jユースカップ	(11/18)
サッカー	第86回関東大学サッカーリーグ戦	(11/24~25)
サッカー	第61回全日本大学サッカー選手権大会	(12/24)

●スケジュールは変更になる場合がありますので、ホームページ等で必ずご確認ください。http://www.naash.go.jp ●

国立競技場 (☎ 03-3403-1151) 国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171)
秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)
味の素フィールド西が丘 (スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

編集後記

ロンドンオリンピック・パラリンピックで盛り上がった今夏ですが、国立競技場では、8月~9月にかけて FIFA U-20 女子ワールドカップ、日本学生陸上対校選手権大会、関東学連陸上新人戦が続けて行われ、次期世代の若いスポーツマンの活躍を目にしました。選手たちの活躍は、次回開催されるリオ、さらには2020年に東京オリンピックが開催されたなら、この中からメダリストが誕生する瞬間を目の前で見ることができても…なんて夢を思い描かせてくれるようでした。これからの若い力に大いに期待したいですね。(I)

国立競技場 第594号

2012年11月1日発行 (隔月発行)

●編集・発行

独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号

tel 03-5410-9121

※10月1日より発行部署が変わりました。

●編集協力 株式会社ジャニス

